

# 障害学生支援理解・啓発セミナー 1

## 支援事例紹介

同志社大学 障がい学生支援室  
障がい学生支援チームコーディネーター  
土橋恵美子

# 障がい学生を支援するために

- 1) 法律のことをきちんと知る
- 2) 障がいについてきちんと知る
- 3) 障がい学生のことを知る
- 4) 障がい学生の困りごとを知る
- 5) 困りごとのうち障がい者でない者と同等の機会を提供するための配慮を提案する

# 障がい学生を支援するために

## 1) 法律のことをきちんと知る

2) 障がいについてきちんと知る

3) 障がい学生のことを知る

4) 障がい学生の困りごとを知る

5) 困りごとのうち障がい者でない者と同等の機会を提供するための配慮を提案する

# 障害者差別解消法（平成25年6月29日制定 →平成28年4月1日施行）

## 不当な差別的取扱いの禁止

- 障害者に対して、**正当な理由なく**障害を理由として、障害者の権利利益を侵害してはならない

※正当な理由があると判断した場合、教職員は、障害者にその理由を説明するものとし、理解を得るよう務めるものとする

## 合理的配慮の提供

- 社会的障壁の除去の実施について必要かつ合理的な配慮を提供しなければならない

# 「障がい」のとらえ方

## 機能障がい

- ・身体や脳が、「多くの人」と同じようにうまく動かない状態になっている
- ・本人の努力や治療で短期間にその状態が変わらない

## 社会的障壁

- ・「多くの人」向けに作られた事物、制度、慣行、観念などが、機能障がいのある人が社会生活を営む上で障壁となっている状態

※「入試は紙と鉛筆で行うもの」という制度、慣行があるが、機能障がいのある人は、その入試方法では自分の能力を表現できない→これが社会的障壁

# 合理的配慮の条件 1/2

- 障がい者から現に社会的障壁の除去を必要としている旨の**意思表示**があった場合
- 実施に伴う**負担が過重でない**
- 目的・内容・機能に照らし、必要とされる範囲（学業/研究/教育）で**本来の業務に付随するもの**に限られる
- 障がい者でない者との比較において**同等の機会の提供**を受けるためのものである
- 目的・内容・機能の**本質的な変更には及ばない**
- 教育の**質を維持**すること

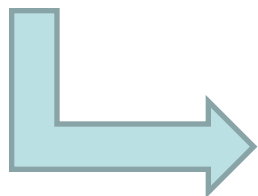
# 合理的配慮の条件 2/2

- 他の学生に教育上多大の影響を及ぼすような教育スケジュールの変更や調整を行うことを求めるものではない
- 代替措置の選択も含め、双方の建設的対話による相互理解を通じて、必要かつ合理的な範囲で、柔軟に対応がなされるもの
- 根拠資料を求めることができる

※高校まで受けてきた支援の履歴等

# 合理的配慮の具体例（同志社の事例）

- 点訳ではなくテキストデータ化



物理的環境整備が  
すぐにできなくても  
「次善の策」を一緒に考える

※同志社大学は『本学ができる範囲の合理的配慮を行う』  
という姿勢（制度）のもと、それを実現するための個別具体  
例[方法論]を考えていくこと、としている



# 合理的配慮にあたらな 可能性が高い配慮の具体例①

- 本来、授業において求めている教育目標を達成していないにもかかわらず合格とする

※コミュニケーションスキルの獲得を目的とした語学の授業で、コミュニケーション実技を免除し、代替手段を考慮せずに単位を付与する



電子媒体を使えば

表現できるということもある

# 合理的配慮にあたらな 可能性が高い配慮の具体例②

- 機能障がいとは直接関係がない変更調整  
※下肢障がい学生の試験における時間延長

他にどのようなケースが「直接関係ない」と考えられますか？

# 障がい学生を支援するために

1) 法律のことをきちんと知る

2) 障がいについてきちんと知る

3) 障がい学生のことを知る

4) 障がい学生の困りごとを知る

5) 困りごとのうち障がい者でない者と同等の機会を提供するための配慮を提案する

# 支援事例

## 聴覚障がいについてきちんと知る

例えばどんな風に音を理解するの？

- ①雨がザーザー降る
- ②お腹がグーグーなる
- ③自転車のベル
- ④先生の出席確認の点呼
- ⑤授業中の音声情報と視覚情報
- ⑥グループワークによる重なる発言

# 障がい学生を支援するために

1) 法律のことをきちんと知る

2) 障がいについてきちんと知る

**3) 障がい学生のことを知る**

4) 障がい学生の困りごとを知る

5) 困りごとのうち障がい者でない者と同等の機会を提供するための配慮を提案する

# 支援事例

## 視覚障がい学生のことを知る

- ・皆さんの大学におられる視覚障がい学生はどのくらい、どのように見えている？  
見えていない？

# 障がい学生を支援するために

1) 法律のことをきちんと知る

2) 障がいについてきちんと知る

3) 障がい学生のことを知る

4) 障がい学生の困りごとを知る

5) 困りごとのうち障がい者でない者と同等の機会を提供するための配慮を提案する

# 支援事例

## 肢体不自由学生の困りごとを知る

### 【事前にわかること】

- ・握力が弱いので自分で書くことができない
- ・移動はできるが扉の開閉が自分でできない
- ・荷物の出し入れができない

### 【事前にわからないこと】

- ・車椅子で移動できない校舎があった
- ・休み時間では移動できない曜日があった
- ・エレベーターに乗れず遅刻する授業があった
- ・階段教室のため黒板の見える位置にいけなかった
- ・人がいっぱい食堂に入ることができず、コンビニでは食べたいものが自分でとれず、お昼をとれなかった



# 障がい学生を支援するために

- 1) 法律のことをきちんと知る
- 2) 障がいについてきちんと知る
- 3) 障がい学生のことを知る
- 4) 障がい学生の困りごとを知る
- 5) 困りごとのうち障がい者でない者と同等の機会を提供するための配慮を提案する

# 支援事例

## 内部障がい学生への配慮を提案する

- 人工肛門のため洗浄する必要がある  
その装具を大学に置いてほしい

→

- ペースメーカーを植込んでいるので授業中  
周りの人は電波を発する機器の電源を  
offにしてほしい

→

# 提案した配慮を法律と照らし合わせる

1) 法律のことをきちんと知る

再 び

2) 障がいについてきちんと知る

3) 障がい学生のことを知る

4) 障がい学生の困りごとを知る

5) 困りごとのうち障がい者でない者と同等の機会を  
提供するための配慮を提案する

# 支援事例

## 配慮提案した内容が合理的かどうか

【聴覚】授業に手話通訳をつけてほしい。

→手話通訳は予算的につけられないので断った。

○？ ×？

【視覚】教科書を全て点訳してほしい。

→過度の負担なので2冊だけ点訳することとした。

○？ ×？

【肢体】文字が書けないので試験方法を変えてほしい。

→5択問題に代替し、口頭回答とした。

○？ ×？

# 障がい学生の支援を考えてみる

## 【事例】

介助が必要な重度障がい学生が、本学へ入学することが決定した。

状態は電動車椅子で上肢は指と手首が少し動く程度  
下肢は感覚がない。

## 【本人の要望】

- 1) 扉の開閉やEVのボタンが押せないため移動介助をお願いしたい。
- 2) 授業中の代筆をお願いしたい。
- 3) 食事介助、トイレ介助、ストレッチをお願いしたい。
- 4) 雨の日だけ移動介助をお願いしたい。

# 本人の要望に対して

1) 移動介助について

2) 代筆について

3) 食事介助、トイレ介助、ストレッチについて

4) 5月からの支援について

# 参考資料

(同志社大学)

# 同志社大学について

教学組織	14学部16研究科
学生数	学部生 27,130名 大学院生 2,348名
教員数	専任教員 809名 嘱託講師 1,569名
2つの校地	京田辺校地 約9,000人
	今出川校地 約20,000人

2018年5月現在

●同志社は1875年(明治8年)11月29日、新島襄により生徒8名、教員2名の英学校として京都の地に創立された。以来、キリスト教主義を徳育の基本とし、「教育あり、知識あり、品行ある」「一国の良心」ともいうべき人々の養成をめざして今日まで歩んでいる。



## ■障がい学生支援制度の理念

### 1) 支援制度の基本方針

他の学生と等しい条件の下で学生生活を送れるように情報保障を中心に支援

### 2) 支援制度の目的

“自律的成長”の場となり

再び学内外の

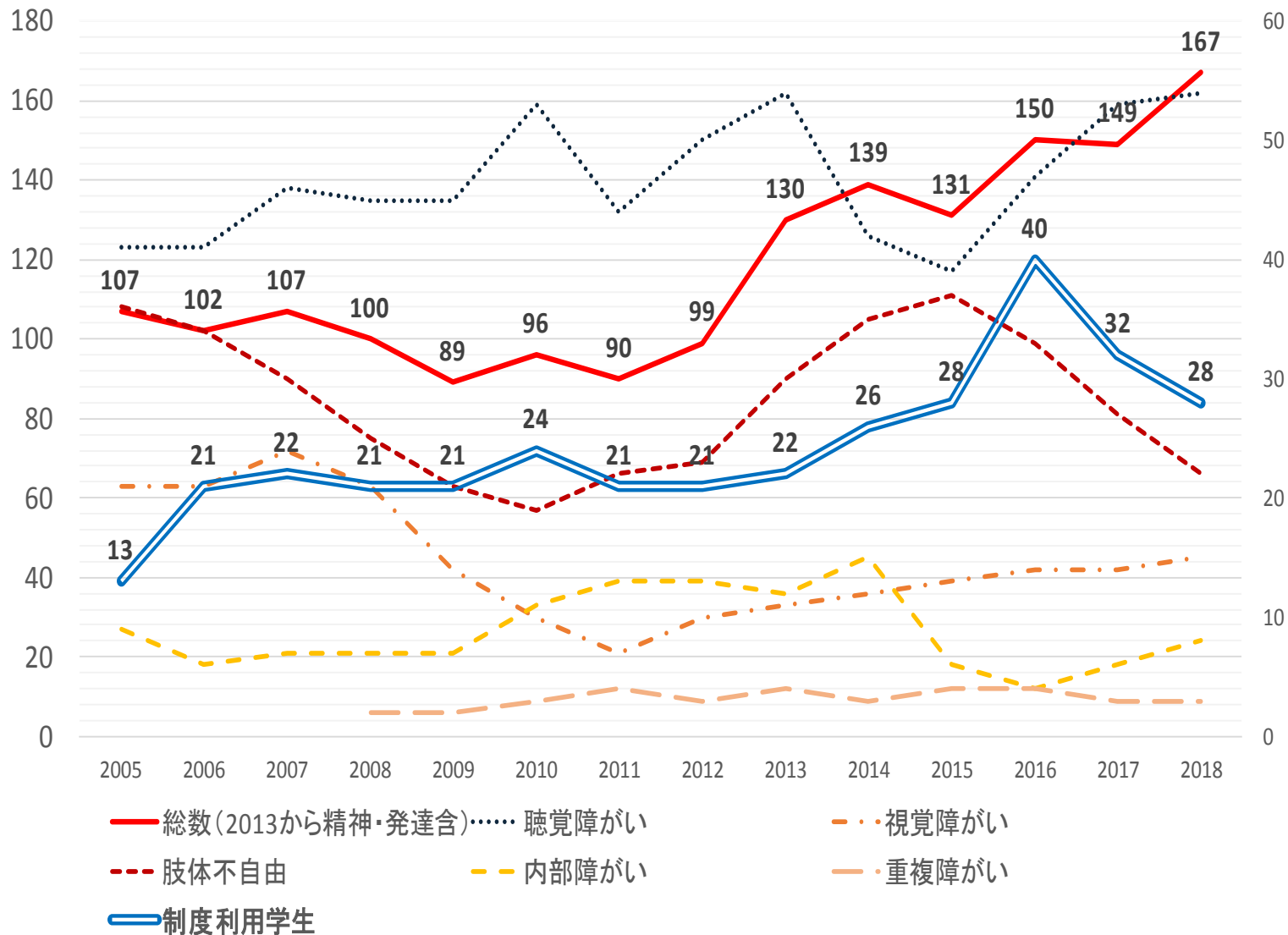
コミュニティに還元

すること



# 障がい学生の推移

(単位:人)



## 2018年度 スタッフ登録者数

(単位:人)

学 生	248
一 般	11
合 計	259

## 2018年度春学期 障がい学生支援サポートスタッフ派遣状況

### 京田辺校地

サポート内容	週当たりコマ数(コマ)	サポートスタッフ数(人)
パソコン通訳(2名体制)	20	40
パソコン通訳(3名体制)	2	6
パソコン通訳+ノートテイク	2	6
ノートテイク	2	2
UDトーク	1	1
代筆・ポイントテイク・対面朗読	16	16
車いす・トイレ・食事介助	0	0
合 計	43	71

### 今出川校地

サポート内容	週当たりコマ数(コマ)	サポートスタッフ数(人)
パソコン通訳(2名体制)	12	24
パソコン通訳(3名体制)	5	15
パソコン通訳+ノートテイク	1	2
ノートテイク	1	2
代筆(講義内補助、対面朗読、付添含む)	33	33
車いす・トイレ・ストレッチ・移動介助	51(内ヘルパー対応2)	51(内ヘルパー対応2)
合 計	103	127

# ご清聴 ありがとうございます



<http://challenged.doshisha.ac.jp/>